

申請大学に対する委員会審査意見 ※指定大学分抜粋

大学名	審査意見
東京学芸大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員養成フラッグシップ大学として取り組む内容、組織、資金等、その具体化に向けた準備が組織的になされており、今後の取組の成果が期待できる。 ・ 先端教育人材育成推進機構のリエゾンチームの機能による「教育創成科目」の先進的開発手法（企業・産業界との連携）と教員養成課程カリキュラムの運用、全国展開を見据えた当初からの複数地域の教育委員会との連携といった先進性を有する内容が構想されており、これらの実施に係る学内ガバナンスも含めた提案がなされている点は評価できる。 ・ 産官学民連携等を通して学部生・院生・現職教員がプログラムの中で何をどう学び取っていくのかという学修プロセスのモデルと評価を明確化し、結果を基に各プログラムやカリキュラム全体の持続的改善を図っていくことが望まれる。
福井大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで築いてきた実践者のネットワーク（コミュニティ）を基盤として、参加者の省察性の一層の高まりと外部からのコミュニティへのアクセスのし易さの向上を目指して、学内の組織改革、省察性を高めるカリキュラム改革、実践者の長期的成長の記録等をリソースとして用いたDX化を行い、ポートフォリオ等による学習プロセスの評価で成果を明らかにしていこうとする基本的枠組みは、教員養成フラッグシップ大学の一つの実践的展開として評価できる。 ・ 複合実践力を掲げた教師像は明確であり、省察的実践の長期漸成サイクルの重要性は理解できるものの、教員養成フラッグシップ大学としての取組とこれまでの実践との差異を明確にし、今後何を新たに構想し、実現するかをより具体化した上で、革新性をもって取り組むことが必要である。 ・ 他学部での教員養成への展開や、他学部が有するリソースを教員養成に生かすといった、総合大学の教育学部のモデルとなる取組を積極的に展開することが一層求められる。
大阪教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ダイバーシティ大阪」を踏まえた課題設定は適切で、「令和の日本型学校教育」の具現化につながるものであると言え、求められる人材像、人材育成目標やカリキュラムの全体像も具体的で明確である。また、大阪アドバンスト・ラーニング・センター（OALeC）を拠点とした学校教育高度化プロジェクトは革新的で、令和の日本型学校教員養成を先導する可能性が高いと評価できる。 ・ 民間企業や行政との連携体制が構築されており、取組を展開するための人的リソースについての展望がある点が評価できる。バーチャルスクールの教材開発を通して全国的に貢献することも期待できる。 ・ カリキュラムの進行とともに、それを評価する持続的改善サイクルを構築することが望まれる。
兵庫教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの実績に加え、教員養成フラッグシップ大学としての取組が明確に示されており、確実な成果が期待できる。また、サブ・テーマとして「アジャイル型手法を導入したカリキュラム開発」を掲げており、こうした手法によって不断の改善を図ろうとする姿勢が評価できる。 ・ 教員養成スタンダードを立て、それに対応して7テーマを広くカバーしているという領域の広さ、日本型STEAM教育、インクルーシブ教育、教育データサイエンスのいずれにおいても、具体的な独自性が高い内容が設定されている。またカリキュラム開発において、社会的インパクト評価のためのロジックモデルの構築に取り組むなど、構想を実現するための検討がしっかりとなされている点が評価できる。 ・ 取組の評価に当たっては、直接支援・介入可能な成果（アウトプット・直接アウトカム）から、参加者（学生・院生・現職・大学教員）の変革がどう起きるか（中間・最終アウトカム）の支援と評価が重要であり、参加者のリフレクションが促されるための工夫が求められる。評価についても「観」の転換を目標とする場合、「やっていないつもりができていく」といった受講生をすくい上げる取組も期待したい。